

## た　ゆう　はま　みなものよし　つね 太夫浜に源義経がやってきた？

### ■ 昔から日本人に愛されている義経

源義経は、兄の頼朝たちとともに平氏討伐のために活躍しながら、その頼朝に追われ、ついに平泉で討ち取られた歴史上の人物です。

昔から、義経の数奇な運命と悲劇的な最期には、多くの人が同情してしまいます。弱者に同情するときに使う「判官鼻眞」ということばも、義経の運命に同情的な日本人の気質がもとになり、作られたことばです。

悲劇の義経がたどったといわれる道沿いなど、日本の各地に、真偽はわかりませんが、多くの義経伝説が残っています。北区にも伝説が残っています。

### ■ 太夫浜に伝わる さまざまな伝説

義経主従は、兄の頼朝に追われ、京都から北陸路を通して平泉へ落ち延びる旅の途中、太夫浜へ辿り着きました。そして、太夫浜の有力者の安古左衛門に一夜の宿泊を乞いました。しかし、すでに頼朝から義経一行を見つけたら捕らえるようにとの触れが回っていたので、



太夫浜の諏訪神社

安古左衛門は宿泊を断りました。やむなく義経一行は、近くのお堂に分かれ宿泊しました。翌朝、近くの諏訪神社を参拝中の義経らを、追っ手が捕らえようとしました。しかし、義経らは追っ手を追い散らし、この地から去っていったそうです。

ほかに、夜のうちに安古左衛門の手勢が義経らを捕らえようとしたものの追い散らされたという伝説もあります。

### ■ 義経の愛馬が太夫浜の地名の由来？

太夫浜の諏訪神社の境内（宮ノ浦）には、義経の愛馬の墓と伝わる塔があります。愛馬「太夫黒」が、ここで死に葬られたそうです。太夫黒が死んだ浜なので、ここを太夫浜と呼ぶようになったという言い伝えがあります。

また、江戸時代に書かれた『越後野志』には、地元で伝わる話として「太夫黒は、太夫浜の産まれで、太夫は村名、黒は毛が黒色だったのでこの名が付けられた」と書かれています。



太夫黒の塔

もともと今の太夫浜小学校のところにありましたが、戦前に太夫浜青年会が現在地へ移しました。